会　議　録

１　会議名

令和３年度第１回上越市総合教育会議

２　議題（公開・非公開の別）

⑴ これからの学びの場づくり・人づくり～ＩＣＴ・オンラインを活用した学び～（公開）

３　開催日時

令和３年７月１４日（水）午後１時３０分から３時００分まで

４　開催場所

上越市役所木田庁舎４階　４０１会議室

５　出席者（敬称略）

・構 成 員：上越市長　村山秀幸

上越市教育委員会　教育長　早川義裕、教育長職務代理者　大谷和弘、委員　中野敏明、委員　本間倫子、委員　山縣知子

・市長部局：理事　八木智学、総務管理部長　笹川正智、総務管理課長　瀧本幸次、総務管理課参事　長谷川由紀子、総務管理課情報政策室長　水澤弘光

・事 務 局：教育部長　市川　均、歴史文化指導監　中西　聰、教育総務課長　新部彰、教育総務課参事　戸田正明、学校教育課長　野田　晃、社会教育課長　小嶋栄子、教育総務課副課長　佐藤晴美、教育総務課副課長　柳澤直也、学校教育課指導主事　畾　和弘、教育総務課企画係長　小酒井洋平、教育総務課主事　櫻井美沙子

６　発言の内容（要旨）

（１）開会

【教育部長】

本日はご多用の中、ご出席いただきありがとうございます。

私は、本日の進行を務めます教育部長の市川です。よろしくお願いいたします。

市内では、ジムリーナを会場としまして、オリンピックに向けたドイツ体操チームの直前合宿が行われております。ＩＣＴの技術を活用して、選手と子どもたちとの交流会も実施されたところでございます。また、梅雨も明けたところでもあり、夏本番の到来で子どもたちのわくわく感が高まる時期を迎えております。

本日の会議には、市長、教育長、そして教育委員の皆様全員のご出席をいただいてい

るところでございます。また、関係職員として、市長部局からは、理事、総務管理部長、総務管理課長、総務管理課参事、総務管理課情報政策室長、教育委員会からは、歴史文化指導監、教育総務課長、教育総務課参事、学校教育課長、社会教育課長が出席しております。

それでは、ただ今から、上越市総合教育会議を開催いたします。

お手元に配布いたしました次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに、村山市長からあいさつをお願いいたします。

（２）市長あいさつ

【村山市長】

今日は梅雨が明けたということでありますが、この梅雨明け間近になりますと本当に天気予報が気になります。今年も全国各地で土砂災害、大雨により甚大な被害がもたらされております。残念ではありますが多くの方が亡くなられました。心からご冥福をお祈りしたいと思います。また、被災された皆様におかれましては、一刻も早い復旧・復興を願っているところでございます。

上越で夏と言えば祇園祭がありますが、コロナ禍にあって、昨年に続き今年も中止ということになっています。しかし、今なお日暮れ近くなりますと、各町内会では子どもたちが、祭りがなくても練習する太鼓の音が聞こえてきます。まさに夏を実感するところであり、ほどなく夏休みが始まります。子どもたちの元気な声が町中にあふれることを楽しみにしながら、短い夏でありますが、夏を過ごせるということに思いを強くしているところでございます。

教育委員の皆様におかれましては、常日頃から上越市の教育行政の推進に深いご理解とひとかたならぬお力添えを賜っておりますことに感謝とお礼を申し上げます。また、市政全般にわたり、ご支援とご協力を賜っており、重ねて感謝を申し上げます。

この総合教育会議は、平成 27 年の教育委員会制度の改正に伴い設置され、今回で 6 回目の開催となります。本日の会議においては、これからの学びの場づくり、人づくりとしてＩＣＴによるオンラインを活用した学びということをテーマとしながら、意見交換をさせていただくということになっておりますので、よろしくお願いいたします。

また、ご案内のとおり、昨年度から新しい学習指導要領に基づく学びが始まりました。子どもたち一人一人がタブレット端末を持ち、学ぶための整備が完了しました。各学校においては、それぞれ創意工夫を凝らして、色々な新しい学びの実践を進めている

ところだと思っております。この新しいツールを使った学びというものを今日のこの会議の中で実践するということでございますので、今までであれば、紙と鉛筆だったものに新しいツールが加わって、このツールを使うことによってどのようなことが可能となるかを皆で共有しながら意見交換できればと思います。そして、そこから出てくる課題や更なる可能性にも意見交換が広がればありがたいと思っているところでございます。

結びとなりますが、教育委員の皆様のお力をお借りして、上越市の教育行政の更なる推進に取り組んでまいりたいと思いますので、今日は闊達な意見交換ができればと思います。今日のこの会議が有意義なものとなりますようよろしくお願いいたします。

（３）協議

【教育部長】

それでは、協議に移ります。

ここからは、上越市総合教育会議運営要領第５条の規定に基づき、村山市長に進行をお願いいたします。

【市長】

それでは、協議に入ります。次第に基づき協議を進めてまいりたいと思います。時間は限られておりますが、有意義な会となりますように、ご協力をお願いいたします。

本日の協議題は、「これからの学びの場づくり・人づくり～ＩＣＴ・オンラインを活用した学び～」であります。

まず、協議題について事務局から説明を受け、次に意見交換を行う順で進めてまいりたいと思います。

それでは、はじめに、ＧＩＧＡスクール構想を受けた学校教育におけるＩＣＴ環境整備の取組や実際の利活用の状況について、事務局から説明いただきたいと思います。

【野田学校教育課長】

それでは取組について説明いたします。

これからの急激な社会の変化に応じて、子どもの学び方や、学校教育のあり方を大きく変える施策がＧＩＧＡスクール構想です。ＧＩＧＡスクール構想は、児童生徒に１人１台の端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、子どもたちを誰１人取り残すことなく、個別最適な学びと協働的な学びを学校で実現することをねらっています。

上越市では、小学校 48 校、中学校 22 校に高速大容量通信ネットワークを敷設し、各普通教室で無線ＬＡＮを利用できるようにしました。情報端末は操作性の良さ、教育用のアプリケーションの豊富さ、スマートフォンの操作性との類似性から、ｉＰａｄを選択しました。また、将来的にコンピューターによるテストが導入されることが予想されることから、キーボードとセットにして整備いたしました。現在、児童生徒に１人１台、教職員には、指導用として教室に１台のｉＰａｄを整備しております。児童生徒が使用する学習ツールとして、学習者用クラウド「Ｇｏｏｇｌｅ　Ｗｏｒｋｓｐａｃｅ　ｆｏｒ　Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ」を導入しました。時間や場所、端末の種類によらずに利用でき、複数人で共同作業を行うことができる学習者用クラウドサービスです。小学校 1 年生から中学校 3 年生までの全児童生徒、全教職員に、1 人 1 アカウントを作成し、利用を開始しております。大型提示装置の整備は、令和 2 年度末時点で 95％の整備率となっております。今年度中に全ての教室への整備が完了します。一人一人がｉＰａｄに入力した図や言葉を見やすく表示したり、全員で考えるための資料や動画を表示したりすることにより、授業における協働的な学びをより充実させます。ＧＩＧＡスクール構想の趣旨、整備状況についての説明は以上です。

具体的な取組状況について、罍指導主事が説明いたします。

【罍指導主事】

それでは続いて、学校での活用状況について説明いたします。

4 月中旬に学習者用クラウドの新年度準備を終え、本格稼働を開始しました。ＩＣＴを活用した学習場面は、一斉学習、個別学習、共同学習と、大きく三つに分類することができ、さらにＩＣＴを効果的に活用できる学習場面を 10 場面に細分化することができます。この分類をもとに、各校で行われている実践事例を紹介します。

これから動画を流します。（最初の動画）中学校の体育の様子です。教師が複数準備したダンスの見本動画を一斉に提示しました。その後、生徒個人のｉＰａｄに保存し、体育館で繰り返し練習することができるようになりました。画像音声、動画などを活用して提示すると、学習内容をわかりやすく説明することや、子どもたちの興味関心を高めることができます。

（次の動画）この場面は、小学校理科のメダカの観察です。泳ぐメダカの画像を撮影し、雄雌の違いについて、ペイント機能を使って画像に書き込んでいます。調査結果を友達と見せ合い、雄雌の識別のポイントを確認し合うことができました。

（次の動画）次の場面は、小学校の外国語の学習です。ＡＬＴと教師が会話の手本を示

しました。すると、ある児童から、その音声を録音したいと申し出があり、ｉＰａｄを使って録音することになりました。その後、このように再生をして、確かめながら練習をしています。この時、教師は事前にＡＬＴ等を撮影した見本の動画を準備していたそうですが、児童の思いを生かした学習展開に変更したそうです。

撮影機能を用いた画像動画の観察記録、インターネットを用いた情報収集、資料の比較による分析などを通し、情報を主体的に収集分析する学習ができます。

（次の動画）この場面は、中学校の英語の学習の様子です。アプリを活用して、並び替え作文の練習問題に取り組んでいます。

（次の動画）この場面は、中学校理科の学習の様子です。「Ｑｕｉｚｌｅｔ（クイズレット）」というアプリを活用して、元素記号の練習問題に取り組んでいます。

児童生徒の習熟度に合わせ、カスタマイズが可能な教材やドリルソフトを使うことで、各自のペースで学習を進めることができます。その他にも、英語のスピーキングでは、自分の話す様子を録画再生し、自己評価しながら練習を繰り返すことで、自己の習熟度に応じて学習を進めることができます。

（次の動画）この場面は、小学校社会の学習です。クリーンセンターを見学し、学習したことをスライドにまとめています。撮影してきた画像や教師が提供した画像から必要な画像を選択し、レイアウトを考えたり、見出しの説明を工夫したりしながら整理しています。

これまでは、新聞やレポートなど紙面にまとめることが多かったのですが、１人１台のｉＰａｄにより、スライド機能や動画編集機能を使用し、デジタルでまとめることが身近になりました。

撮影した動画を繰り返し視聴することで課題を発見したり、結果を考察したりすることができます。また、デジタル教材や学習用アプリを使い、課題解決に向けたシミュレーションを何度も繰り返すことで、学習課題への理解が深まります。

（次の動画）この場面は、小学校算数図形の仲間分けの学習です。プリントの代わりに、手づくりのデジタル教材を１人１台のｉＰａｄに配信しました。子どもたちは、画面に表示された図形を移動させたり、線で囲んだり、分けた理由を書き込んだりして、試行錯誤しながら図形を分類しました。そして、デジタルのワークシートに、自分の考えで仲間分けを表現し、それを教師に送信します。教師の端末を経由して、大型提示装置で拡大提示し、クラス全体に説明しました。このように、自分の考えを大型提示装置などを使うことで、わかりやすく説明して、発表や話し合いをすることができます。

（次の動画）この場面は、板倉小学校新設に向けて、学校間の交流活動をビデオ会議システムを活用して行った時の様子です。このように、小規模校同士の交流活動や、外部の専門家と教室等を結んだ学習など、学校を越えた交流により、学びや体験を深めることができます。

ここまでが、各学校での１学期までの取組の様子です。

今お手元にあるｉＰａｄは、各学校に整備されたものです。実際に操作し、利用するための準備をしていきたいと思います。

以上で概略の説明を終わります。

※その後、出席者（構成員）によるｉＰａｄの操作体験を実施

【市長】

子どもたちが実際に学校で新しいツールとして、学びに活用しているということでありますが、何かご意見なり感想がございましたらどうぞ。

【早川教育長】

たぶん、子どもがこういうものに慣れるのはもっと早いと思いますが、導入の段階で、慣れるまでには、当然ながら時間もかかるし手間もかかると思います。そこに、教員の、いわゆるイニシアチブがちゃんと追いついていくのかどうかということを心配しています。まずは、やりながら慣れていく。そういう考えでいくしかないと、今、実際やってみて思っています。ただ、可能性としては非常に色々なことが考えられるということを感じました。以上です。

【山縣委員】

本当に子どもたちは早く、想像力豊かで、大人よりも色々な使い方を考え出していくだろうと思っています。教育長がおっしゃったように、教師が子どもたちの発想にいかについていけるかということが大変なのかもしれないと思っています。

【大谷委員】

私は、娘が附属中学校に通っておりまして、ＩＣＴの先進校ということで、ｉＰａｄの講習会にも参加させてもらったこともあります。皆さんがおっしゃるように、非常に子どもは飲み込みが早く、我々の持っていないようなｉＰａｄの使い方や全然知らないような機能を勝手に覚えて使います。我々が思っている常識がもう常識ではなくなってくる。我々は、おそらく文章を作るときは、ノートパソコンの方が早いと思いますが、彼らにとっては、こちらの方が早いということになっています。

【本間委員】

家庭においても、子どもたちが自分専用のスマートフォンを持っている場合もあるし、お父さんお母さんなど家族が持っている場合もあって、機能やタップの仕方が似ている部分があるので、取っ掛かりがよいと思います。家庭にも同じ機能を兼ねた機械があるわけですから、学校では、家庭で日常的には使わない、あくまでも学習を念頭に置いたこの使い方でどんどんやって、子どもたちが体験できるとよいと思っています。学習はゲーム感覚ですが、動機づけとしては、すごく素晴らしいアプリが沢山あると思いました。そういうものをどんどん活用して、家では使わない使い方を学校でしてくれると嬉しいと思います。授業にＩＣＴ活用が多くなると、先生方の心理的な不安、負担感を心配しています。今までの一斉授業では指導力のある先生が沢山おられると思いますが、これが入ったことで自信をなくすようなことがないかという危惧の気持ちもあります。

【中野委員】

本当に、可能性があると思いました。小学生は本当に抵抗なくやっています。私は、30 年前に附属中学校の教諭でしたが、国の指定を受けて、コンピューターの活用を 3 年間研究し、本にまとめました。それから 30 年が経ち、確かに附属中学校は色々な整備がされています。子どもたちがずっとその後もフューチャースクールというような経験をしながら、全国でもトップクラスの力があると思います。

国が学校のＩＣＴ整備に対してお金をつけてくれた、こういう環境が突然こう決まったということです。大変なことではありますが、可能性は本当に高いと思います。

学習指導要領が改訂されて、先生に言われたことをきちんと覚えることやテストも大事かもしれませんが、もっと大事なことは、探求的であり対話的であることです。コミュニケーションの中で、自分でおかしいなと思ったり、これ面白いぞと思ったり、追求するツールとしてすごく広がりがあると思います。これからは、ぜひそういう活用が広がればと思いますし、先生方も大変ですが頑張っていただき、子どもとともに、子どもから教えてもらうことがあってもいいのではないかと思います。そうやって、やっていくことが大事だと思います。

【市長】

それでは続いて、上越市の教育におけるＩＣＴ活用の方向性と、今後の動向について事務局から説明をいただきたいと思います。

【罍指導主事】

先ほどの説明のとおり、各学校では、１人１台の端末の活用が始まり、導入初期の現在では、これまで別の道具や方法で行ってきたことを、ｉＰａｄを積極的に活用して学習しようとしています。

令和 2 年度末に中央教育審議会は、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげるということを、2020 年に実現すべき令和の日本型学校教育の姿として示しました。この個別最適な学びと協働的な学びの充実のために、ＩＣＴを積極的、効果的に活用することが重要となります。

個別最適な学びについては、これまでの学校教育では決められた教室・学年の中で、一律の目標のもと、一律の内容を一律のペースで、一斉に、受け身で学ぶことが多くありました。ＧＩＧＡスクール構想によるＩＣＴ環境を有効活用することで、これからは、場所や学年、時間の制約を必ずしも受けず、個人目標と選択をもとに、多様な内容を多様なペースで、個別に、時に協働的に、能動的に学ぶことが可能になります。例えば、教師の話を聞くという受け身の姿勢だけではなく、教師の話や提示資料の中にある言葉の意味がわからない場合には、手元のｉＰａｄで即検索し、確認することができます。また、児童生徒が追求したい課題について、広く、深く納得がいくまで調べやすくなります。一人一人が別の内容を学習したり、学習履歴を蓄積したりすることで、一人一人のニーズに応じた学習が可能になります。自分が必要とする知識技能を自ら学んでいく力は、これからの変化の激しい時代を生き抜く児童生徒にとって大切な資質能力であり、個別最適な学びの充実は重要です。

協働的な学びについては、これまでの学校教育では同じ教室というように場所と時間に制約された話し合いや関わりでした。ＧＩＧＡスクール構想によるＩＣＴ環境を有効活用することで、これからは場所や時間の制約を必ずしも受けず、多様な他者と協働を行うことで、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出すことが可能になります。例えば、児童生徒の複数の意見、考えを即時共有することが可能になり、話し合いを通して思考を深めながら意見を整理したり、一つの資料や作品を協働で制作したりしやすくなります。

また、遠隔地や海外の学校、学校外の専門家と意見交換をしたり、世の中に向けた情報発信をしたり、学校の壁を越えた学習をすることも可能です。ＧＩＧＡスクールによるＩＣＴ環境により、児童生徒がこれまで以上に主体的に創造的に学ぶ機会が広がり

ました。この環境を十分に活用するためには、課題もあります。

現在、各校で利用が進んでいますが、学校や教員により利活用の程度に差が見られます。学校や教員によるＩＣＴ活用に対する意識の差が、学びの格差とならないように、研修機会の提供や利活用を促す情報提供の一層の充実に努めます。また、普通教室に指導用ｉＰａｄと高速大容量通信に対応する無線ＬＡＮを整備しました。しかし、理科室や音楽室、体育館など特別教室で端末をネットワークに接続して利用できないことや、学級担任以外の端末が不足していることなど、利活用の状況を受けて環境整備を進める必要があると考えています。

児童生徒の端末利用を日常化するために、家庭での端末利用を今後検討するとともに、児童生徒の健康面への影響について実態把握を行っていくことも必要です。

ＩＣＴの活用により、児童生徒は追求したい課題を広く深く納得いくまで調べることができます。インターネットを通じて学校を離れ、世界の人々と繋がって学び合うことも可能となります。個別最適な学び、協働的な学びの一層の充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、これからの社会をよりよく生きる子どもを育てていきたいと考えております。

以上です。

【市長】

今、このＩＣＴ利用による学びの環境や方向性、そして考えている課題について説明がありました。このことについてフリーな意見交換をしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【中野委員】

個別最適化された学びとして、学校やそれぞれ学ぶ場所の距離にとらわれなくてもできるというのがよい。子どもたちが個別化した学びができるということになると、今まで複式学級を駄目なもの、悪いものという考え方にとらわれていた親御さんもそうだし、先生方も大変と言っていたことが、個別化した授業ができることになる。

上越市の場合は、周辺地域の子どもの数が激しく減っていますから、どうしても学校統合が話題になってきて、そうしなければいけないという形になっていますが、ＩＣＴをうまく利用することによって、先生が十分に対応できる。逆に言うと、小規模であればあるほど丁寧な対応ができる。子ども同士の対話も少ない人数の中で十分できて、先生もその一人一人の把握ができて指導ができる。ということで、もう一度よく、急いで統合することの善し悪しを、この流れの中で研究を進めていけないかと思います。

学校がなくなるということは、その地域にとって本当に寂しい思いになってしまい、人がいっぱいいるところにみんなが出ていくというような感じになりやすいわけですが、それは地域の衰退に繋がっていくことになりますから、そういったことも考えることができるということを提案したいと思います。

【市長】

複式学級のある学校であっても、ＩＣＴの活用によって、それぞれの学びの広がりがあるということの話がございました。

ほかにいかがでしょうか。

【大谷委員】

このＩＣＴ教育は、みなさんおっしゃるとおりすごく可能性があって子どもたちにとって、これからグローバルに生きていく中で必須なものだということはありますが、現時点で三つ問題点があると私は思っています。

一つ目は、小中学校でこういうＩＣＴ教育が進められている中で、高等学校ではそんなに進んでいる学校がありません。やはり高度な、こういうＩＣＴ教育を受けた上で、例えば附属中学校の子が高田高校に行きます。高田高校がこういうＩＣＴ教育を受けて、さらに進んだ教育をしてくれるということであればよいのですが、そうではなく、逆にアナログに戻っている部分もあります。そこの継続性をまず持っていかないと、今後、これが本当に伸びていく部分であっても、ちょっと伸びしろが少なくなってしまうのかなというところがあります。

二つ目は、このＩＣＴにおいて、これは楽をするツールではないということを子どもたちがちゃんと理解しないといけないということです。例えば、国語の授業で文章を読んでいってわからない言葉があった場合、ＩＣＴで調べればすぐ出てきますが、そうやって調べた言葉は覚えません。私の娘もそうですが、小説や文書を読んでいて、わからないときは検索しますが、もう 1 回出てきたときに、またわからないというようになっています。それは明らかに、これを楽なツールとして使っているわけであって、学びを深めるツールでなければいけないものが、楽をするツールになってしまっています。その点において、やはり子どもたちの学ぶ能力というのが少し落ちる懸念があります。

三つ目は、私が最大の問題だと思っているのは、このＧＩＧＡスクール構想が継続する上で、機械なので 5 年も経ったら必ず陳腐化し、古くなるということです。5 年経った後にどうやってそれを更新していくのか。また、それを継続するためにはかなりお金が必要になってきます。先ほどのご説明でもありましたが、これは文房具です。文房具

だとすれば、基本的には自分の持ち物でなければならないと思います。自分の持ち物であればこそ大事に使うという心も生まれますし、学ぶために使う。ツールとして活用することもできると思いますが、どうしても今は学校の持ち物です。それこそ学校のパソコン教室が 5 年経ったらどうなのか。全国の小中学校のパソコン教室にパソコンが導入されましたが、結局そのパソコンも陳腐化して、全く無用の長物になっている状況です。それと同じことが起きかねない中で、どういう方法がいいのかわかりませんが、入学した時にランドセルと一緒に買うぐらいの、そういった思い切ったやり方でないと続かないと思います。

今回も相当のお金をかけて全校に配備されましたが、これが 5 年ごとに来る陳腐化の波に予算投入できるかというのが非常にやはり疑問ですので、そこの仕組みを根本的に見直さないと、せっかく子どもの可能性を伸ばすためのツールが、最初だけで終わってしまう可能性があるので、これから検討すべき最大の課題だと思っています。

【市長】

導入する時からそのことも議論されましたが、大谷委員から提案があり、今改めてそのとおりだなという思いをしています。

【山縣委員】

ＩＣＴ化は、これからを生きる子どもたちにとって絶対に必要なもので、なくてはならないツールです。今まで鉛筆と紙がなくてはならなかったように、なくてはならないツールなので、学校現場でいかにこれを使っていくかということが本当に大事なことだと思っています。その時に、これからの課題にも出ていましたように、学校や先生方によって違うということを感じています。私も子どもが 3 人とも附属中学校だったので、一番下の子どもはこの 1 人 1 台のときに入っていましたが、そこで授業参観などで見た様子と、今私の周りにいる附属ではない小学校・中学校に子どもが通っている親の話を聞いていると、全然違うということを感じています。上越市には全国でも最先端の附属中学校があるので、何とか連携してもらえないかなと思います。どういう形でうまく連携できるのかわかりませんが、先生方が順番に附属中学校へ授業参観に行くだけでも違うと思いますし、進んでいる学校の教育の現場を見ていただくことで大分変わっていくのではないかということを実感しています。今、先生方がただでさえ忙しい中で、そういう研修も大変だと思いますし、先生方がみんなＩＣＴに強いわけではないと思います。どう活用するのかということとは別に機器の問題もあるので、学習情報指導員がそのサポート役を担うのではないかと思います。4 人の学習情報指導員が小・中

学校全部を回っているのでしょうか。それだと、本当にたまにしか学校に行けないと思いますので、その方たちがもう少し増えてくれると先生方もとてもやりやすくなるのではないかなと思い、意見として申し上げます。

【市長】

学校間の格差、小中学校もこれだけ数があるわけですので、それぞれの現場での格差があるのではないか非常に心配です。それから、地元にある学校との連携はどうだろうかという話がありました。また、実際に機器を含めてサポートや財政がこれで十分かというようなご心配もいただきました。まさに課題だと考えております。

【本間委員】

私は福祉的な観点でお話させていただきたいと思います。このｉＰａｄは、学習のアプリで学習するということに使うのは一番の目的ですけれども、コミュニケーションのツールとしても、すごく活用できるものだと思います。言葉を用いたやりとりが苦手な子どもがいた場合に、もうすでに先生たちはきっとこういう機器を使って、画像を見せ説明したりとか、行動の順番を示したり、そういう形で使っていると思いますが、今度は子どもたち同士が、これを使って、そういう子どもたちと自然にやりとりができるような空間ができたらよいと思います。こういうｉＰａｄを媒介として、多様な子どもたち同士が通じ合うような、そんな活用の方法ができたらよいと思います。今、外国人の児童生徒もおられますし、そういった方も含めてコミュニケーションのツールとして、今後、自然に使えるような環境ができるとよいと思います。

【教育長】

このＩＣＴのメリット、デメリットは様々にあると思いますので、いくつか課題をいただいたことは、そのとおりだと思います。当然ながら、可能性は沢山ありますが、やはり未知の分野のものであって、見えている課題あるいは見えていない課題もまだあるかもしれません。そういうものを現場の教育の中でどういうふうに導入していくかということは、今とても難しい課題になっています。教員の研修も当然ながら、今の年齢も経験も様々で、なかなか一律足並みをそろえるということは難しく、サポート体制は必要だと思っていますが、教員自身が主体的に、まずはこれに取り組むという意識を持ってもらい、単なる機械の操作だけではなくて、教育が変わると思っていただきたい。今までの一斉指導から個別最適化という、その言葉の捉え方自体も変わっていかなければならないと思っていますので、そういうところの意識の変換を併せて考えていかないと、単なる技術的なことだけでは、このＧＩＧＡスクールの本当の意味での教育

が進んでいかないと思っています。何か今のＡＩがちょっと全能のような雰囲気になっていますが、決してそうではなくて、やっぱりいろんな課題をはらんでいますので、その辺の可能性もあるけれども逆に限界もある。ＡＩが得意な分野、不得意な分野があるということをしっかり見極めながら、私たちは一歩一歩進んでいって、最後は市として足並みがそろったものにしていく、そういう整備をしていく必要があると思っていますので、時間がかかるとしてもやむを得ないと思います。決して後ろ向きになることはないのですが、あまり前のめりになり過ぎないで、その辺を見極めながら、しっかりと進んでいこうと皆さんの話を聞いて感じました。

【市長】

私も今、委員の皆さんからお聞きした中で、大谷委員がおっしゃったように、これは3年5年経つと必ず陳腐化します。これだけのものを一気に入れて一気に変えていくというのは、今回は国の施策があったからできましたが、これがまた3年後、5年後に全てに渡って変えられるかというと、これは多分難しい話だと思います。このことをどうやって乗り越えていくかというのは課題としてあると思います。これは当初導入する時から心配したことであります。その辺のことは、今後、国がどうするのか、各県、各市によって取り組んできたというものでなくて、一斉に、全国の学校に入ったわけですから。1回はできても、2回3回できるかどうかという議論があり、この危機をどうやって管理していくか難しいと思っているところであります。

もう1点は、さきほどの動画や話にあった中で、ひらめきというか、子どもたちの環境や空気によってパッと変えて、次の方へ移るということが重要になると思います。教員の先生方の個性とか能力によりますが、子どもたちの要望に応えてパッと答えるという、自分がやろうとしたことと違うことをやるということが必要だろうと思いますが、そこまで熟度を上げるには、やはり教育長がおっしゃったように、少し時間がかかるのかなと思います。そうだとすると、委員がおっしゃったように、各学校の格差が残念ながら出てくるだろうという思いもしましたので、それもまた課題と思いました。課題ばかりではなく、いいところもあるわけですから、それをどうやって伸ばしていくかという議論も必要だと思います。

ほかにございませんか。まとめますが、主体的に能動的に子どもたちが学ぶという、先ほどのインターネットに繋がる時点でデメリットもあると私は思っています。これだけ世間では誹謗中傷があり、悩み自殺するような事案もあちこちに出てくる。何かあればすぐそのことについて、人の顔を見ないで悪口だけ書けるというような、使い方に

よっては、非常に危険な部分もあるものですから、この多様な社会の中でどうやって子どもたちが与えられたものでなくて、自分で考えて使えるかという、その学びがどうしても必要だと思います。可能性を信じながらスタートした年でありますので、ぜひ教育関係の先生方には、そのようなことに思いを持っていただいて、子どもと向き合い、子どもが何を考えているか、我々は何を子どもに期待するのか、子どもが主体的に能動的に何を学べるのか、そんな環境づくりに、ぜひ、お力を貸していただいて、上越市の子どもたちに奥深い教育ができる、そんな環境づくりをしていただければありがたいと思っています。

先生方の意見をまとめることになりませんでしたけれども、そんな思いを持った今日の総合教育会議でありますので、ぜひこれからも、教育委員の皆様には、それぞれの立場で子どもたちの教育について、ご提言、またご支援・ご協力を賜りたいと思います。ありがとうございました。

（４）その他

【市長】

それでは、その他として項目を用意しております。事務局としては特にないということですが、皆様から何かございましたらお願いしたいと思います。

【教育委員】

特になし

（５）閉会

【市長】

ほかにないようであれば、本日の協議は終了といたします。熱心なご協議、誠にありがとうございました。

【教育部長】

以上を持ちまして、令和３年度第１回上越市総合教育会議を閉会いたします。